

旧自由亭の西洋料理

一 八七八年、丈吉が長崎市馬町に新築した洋風建築は、その後検事正官舎として使用され、一九七四年に市内の山手にあるグラバー園に一部が移築復元されており、現在は喫茶室として親しまれている。真っ白な洋館は、長崎を訪れる外国人の憩いの場であったに違いない。店内は当時の雰囲気さながらで、まるで明治時代にトリップしたよう。

こちらで楽しめるのが、明治時代に日本へ伝わったとされる「ビーフシチュー」。野菜をじっくり煮込んで作った一皿はコクがあり、ゴロっと入った大きな牛肉が口の中でほじけてゆく。美味しい時間を味わいながら、レトロな木枠の窓の外に目を向ければ、美しい長崎の港の風景が広がり、すぐ下には日本に現存する最古の木造洋風住宅で、世界文化遺産の構成資産でもある旧グラバー住宅が見える。

食後のデザートにいただきたいのが「克蘭ベリー・タルトパイ」。こちらはイギリス商人・トーマス・グラバーの故郷であるス

丈吉の時代を彷彿とさせる店内で、料理と歴史を堪能しよう。



コットランドの伝統菓子を現代風にアレンジしたもの。手焼きのタルトパイの上には数種類のベリーがたっぷりのっている。

また、ぜひ味わいたいののが二十四時間かけて水で一滴ずつ抽出された「ダッチコーヒー」。日本にコーヒーをもたらしたのは、出島のオランダ人だといわれている。長崎はコーヒー伝来の地でもあり、丈吉のレストランでも「コラヒイ」を全国に先駆けて提供していた。

香り高く濃厚なダッチコーヒーは、甘酸っぱい克蘭ベリー・タルトパイによく合う。新しい異国の風が吹いていた明治時代の長崎。そしてその中で夢に向かって生きてきた丈吉。彼が残してくれたもの、思いをめぐらせながら、くつろぎのひとつを過ぎたい。

店内には大阪の自由亭ホテルで使用していたとされる出前箱とナイフとフォークが展示されている。



ビーフシチュー



克蘭ベリー・タルトパイ

